



登録有形文化財 旧東北帝国大学理学部化学教室棟（東北大学本部棟1）のタイルいろいろ

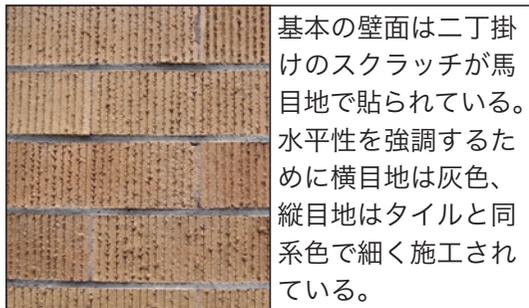
歴史的建造物には、その時代の建築技術や様々な工夫が施されています。

旧東北帝国大学理学部化学教室棟（現在の東北大学本部棟1）は3期に分けて建設され、1927（昭和2）年に東側部分が、1932（昭和7）年には南東角部分が完成、さらに1935（昭和10）年に南側部分が完成しました。東側部分は、建物としての強度が不足していたため、2015（平成27）年に東側のファサードを復元する形で改築を行っています。南面を正面としたファサードは東西中央の3層吹き抜けの玄関部分に太い列柱を立て、壁面は柱型を露出させて3階まで通し、西端の階段室を塔状に立ち上げ全体的に垂直性を強調した意匠となっています。

外壁仕上げは玄関周りが石・タイル張り、南・東面がスクラッチタイル張り、北面が塗料仕上げです。スクラッチタイルは細い溝の模様がある無釉のタイルで、原料に含まれる酸化鉄の発色により赤褐色から黄褐色になり、大正末期～昭和初期の建築によく使用されました。旧東北帝国大学理学部化学教室棟のスクラッチタイルは様々な形状のものが用いられており、建築的な工夫を各所に見ることができます。



コーナー部分はL型の「まがり」と呼ばれる役物タイルが回り込む形で貼られている。これによって綺麗な収まりとなっており、意匠的な配慮が見られる。



基本の壁面は二丁掛けのスクラッチが馬目地で貼られている。水平性を強調するために横目地は灰色、縦目地はタイルと同系色で細く施工されている。



窓回りの役物タイルは水平面はスクラッチがなく垂直面には長手方向にスクラッチが入っている。傾斜もつけられており雨水等を流すための工夫が見られる。



窓回りの役物タイルその2。上部は水平面もスクラッチが入り水切れをよくする工夫かと思われる。また、役物を使うことで壁面に表情を与えている。



南立面



昔の開口部回りも役物タイルを使用し排水に配慮している。窓回りとは異なり、外壁に馴染むようなタイルの大きさを二丁掛けタイルに合わせた。



玄関周りは列柱の石貼りとともに布目タイルを用い、玄関としてデザインに変化を持たせている。布目タイルも役物や貼り方の工夫で表情を作り出している。



片平キャンパスの登録有形文化財についてはこちらから